

県経済の現況' 25～' 26

2026 年 9 月



新潟県

は　　じ　　め　　に

2025年の本県経済は、原材料価格等の上昇による影響などがみられたものの、持ち直した1年でした。

仕入価格の上昇に応じた販売価格への転嫁が進んだことなどから企業の収益は改善し、通年で食料品の商品単価の上昇が続いたことなどから百貨店・スーパーの販売額が増加するなど個人消費にも改善の動きがみられました。一方で、人件費や原材料価格の上昇などを背景に、倒産件数が2年連続で100件を超え、生産においては、年前半はおおむね横ばいで推移しましたが、年後半には、食料品工業において、主食用米への作付転換による加工用米の不足の影響などから弱い動きがみられました。

本書では、最初に日本経済の動向を概観した後、本県が公表している「新潟県の経済動向」等の各種指標を基に、25年を中心とした本県経済の動きをみています。

本書により、県経済の現況について関心、理解を深めていただき、県経済の更なる発展のための議論に少しでもお役に立てれば幸いです。

最後に、本書作成に当たり、資料の提供など御協力いただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

2026年9月

新潟県総務部統計課

目 次

はじめに

1	2025 年の日本経済の動向	1
2	県内経済の動向	3
(1)	2025 年県内経済の概況	3
(2)	個人消費の動向	6
	(百貨店・スーパー販売額は前年を上回った)	
	(コンビニエンスストア販売額及び家電大型専門店販売額は前年を上回った一方で、 ホームセンター販売額は前年を下回った)	
	(乗用車新規登録・届出台数は2年ぶりに前年を上回った)	
	(名目賃金指数は3年ぶりに低下し、実質賃金指数は2年ぶりに低下した)	
	(消費者物価指数は年間を通じて上昇した)	
	(収入C S I、消費支出C S Iともに2期ぶりに上昇した)	

コラム1 「高齢世帯の消費の特徴について」

(3)	建設投資の動向	
①	建設投資	14
	(建設工事受注高は年間を通じて前年を上回った)	
	(元請受注高は4年連続で前年を上回った)	
	(公共工事請負金額は2年連続で前年を下回った)	
	(非居住用建築着工床面積は4年連続で前年を下回った)	
②	住宅投資	18
	(新設住宅着工戸数は前年を上回った)	
(4)	企業活動の動向	
①	鉱工業指数(季節調整値)	19
	(生産は、第Ⅱ四半期まで横ばいで推移したものの、第Ⅲ四半期に低下した)	
②	鉱工業生産指数(原指数)	20
	(年間を通じて前年を下回った)	
③	鉱工業在庫指数(原指数)	22
	(年間を通じて前年を下回った)	
④	企業収益	23
	(売上高、売上高経常利益率ともに前年度を上回った)	
	(経常利益は全産業で前年度を上回った)	
	(仕入価格は「上昇」超幅が縮小し、販売価格はおおむね横ばいで推移した)	
	(全産業の景況感は年間を通じて「良い」超で推移した)	
	(中小企業の景況感は年間を通じて悪化幅の拡大と縮小を繰り返した)	

(経営上の問題点は「人材不足」や「仕入価格の上昇」の回答割合が高かった)

⑤ 民間企業設備投資…………… 31

(製造業は前年度と同水準となり、非製造業は前年度を下回った)

(「情報化(DX)投資」などに対する設備投資が増加した)

⑥ 企業金融…………… 33

(企業の資金繰り判断はおおむね横ばいで推移した)

⑦ 企業倒産…………… 34

(倒産件数は前年と同数となり、負債総額は2年連続で前年を下回った)

⑧ 信用保証の状況…………… 35

(保証承諾件数、代位弁済額ともに前年を下回った)

コラム2 「県内企業の価格転嫁は進んだのか」

(5) 労働需給と雇用情勢の動向…………… 37

(有効求人倍率は年間を通じて低下した)

(新規求人数は3年連続で前年を下回った)

(新規求職者数は前年を下回った)

(製造業、非製造業ともに年間を通じて人手不足感が強い状態が続いた)

(解雇者数、雇用保険受給者実人員ともに前年を上回った)

コラム3 「県内の高齢者の就業状況の変化について」

3 県経済の最近の状況…………… 43

主要経済指標 (新潟県・全国)…………… 48

主な出来事 (2025年1月～2026年3月)…………… 54

県経済の現況 用語解説…………… 55

利 用 上 の 注 意

- ・ 本資料は、「新潟県の経済動向」で公表している経済指標をはじめ、各種資料に基づいてとりまとめています。
- ・ 指標によっては、本資料の公表後に遡及改定される場合がありますので、御注意ください。
- ・ 本文の内容やデータについてのお問い合わせは、統計課調査解析班までお願いします。(電話 025-280-5122)